

北九州歴史文化遺産 第七十回 戦国時代の小倉南・高津尾堰せきの物語



高津尾に水を引いた心吉の偉業や人を偲び、村人が建てた「意吉神社」（所在地：小倉南区高津尾）

今から約500年前の1570年代、戦国時代の元亀年間げんきのころの話。北九州市小倉南区春吉地区に高津尾堰と呼ばれる井堰がある。この地には水量豊かな紫川、東谷川が流れていたが、高津尾村はどちらの川よりも15メートルぐらいの高台のため川の水を利用できない。そのため当時の民は、雨水と谷川の水を頼りに畑で稗ひえや蕎麦そばなどを細々と作り生活するしかない貧しい農村だった。ここに一人の農家が村人たちに「紫川（当時の名称Ⅱ大滝川）から水を引き、米作りを」と提唱。村人たちを引き付けた。

その彼の名Ⅱ心吉。近くの山本村では川の水は豊富なのに、高津尾は高台のため川の水を引けない。米を栽培できない。「自分たちだけでなく、両親にも死ぬまでには米を食べさせてやりたい」との思いから、隣村で紫川が流れる山本村の森長Ⅱ村長もりながに「川の水を利用

させて欲しい」と願いを重ね、神社への嘆願も繰り返していた。山本村の森長は当初、「無理だ。出来るはずがない」と相手にしなかったが、心吉の熱情に、ついに「命を賭けてでもやるというなら認めよう。もし成功したら俺の命をくれてやろう。出来なかったら、命をもらうぞ」と紫川の水利用を了承したのである。

命をかけた、堰作り

その山本村からは、川の水利用に使う堰せきの場所などについて厳しい注文が相次いで出された。「堰は下流に設け、堰の築材は自分たちで遠方から取り寄せろ」などというもので、心吉たち高津尾の村民は一時、やる気を失った。それでも「何としても完成させたい」との願いから努力を重ね、ついに元亀年間の1570年ごろ高津尾堰着工にこぎつけ

た。

だが工事（水路堀）は、村人は、昼間は農作業があるので夜間しか出来ず、道具も貧弱。素人の手作業で水路堀の歳月は実に10年にも及び、ようやく天正年間の1580年ごろ水路を完成させた。

その水路に、いよいよ水を流すことになり、高津尾の村民たちは喜びにあふれた。水は村民の歓声の中で勢いよく流れ始めた。だが当時、晴天続きだったため川の水は村に届くほどの量には達しておらず、途中で止まってしまった。「命を賭して水路を引く」が心吉と山本村の森長との約束だった。晴天が続く中、心吉の命は、水路沿いに設けら

れていた礫はりつけ台の露と消えた。

高津尾の村の人々の嘆き、悲しみは、いかばかりだっただろう。山本村の人たちも涙を流した。が、その時、晴れ渡っていた空が一転してかき曇り、大粒の雨が落ちてきた。やがて激しい雨となり、水路は増水して高津尾の地へ流れが蘇り、水田が誕生した。

郷土の誇りとして 語り継がれる偉業

今、高津尾には紫川の水を得て育った黄金色の稲穂の海が広がる。元亀年間の1570年に着手し、天正8年（1580年）ごろまで約10年間の工事を経ての全延長約1800メートルに及

ぶ堰造り。この事業により水路は約38ヘクタールの農地を灌漑し、経由地の山本、春吉地域の水田も潤している。

この堰の近くの高台に、意吉神社いけよしという小さな祠ほくらが立っている。高津尾への導水事業を成し遂げてから37年後の1617年（元和3年）、地元の人たちが、「大変な苦勞、努力をして高台に水を引いた男Ⅱ心吉Ⅱの意志を忘れないように」との思いで建て、神社名も心吉の名と心を表わしたもの。その願いは今も変わることなく、地元の人からは「森様」と親しみをもって呼ばれ、毎年5月、神事が行われているという。

その事業が成し遂げられてから現在約450年。国内では、若松区出身の

医師・中村哲さんのベシヤワール会がアフガニスタンで農業用水路を建設する際、参考にした筑後川の山田堰が有名だが、高津尾堰はそれよりも何百年も早く、作業道具も何もない時代に成し遂げられていた。地元の中谷地区まちづくり協議会では、「地元で、こんなにすごい事が行われていたということを、郷土の誇りとして語り継いでいきたい」としている。

シニアスタッフ 村田和夫

高台に水を引いた男

小倉南区・高津尾堰の物語



北九州歴史文化塾
講演会

「高台に水を
引いた男」と
高津尾堰

2025年11月27日(木)

10:00~11:30 <開場9:30>

会場	小倉城庭園研修室 (小倉北区城内1-2)
参加費	会員1,500円 一般2,000円 (資料代含む)
定員	20名(事前予約制)
申込期限	11月22日(土)

講師 鶴久 安治氏
郷土史を勉強する・さんさん会代表

プロフィール

長年にわたり地域の歴史研究に情熱を注いできた「さんさん会」。特に小倉南区の重要な歴史遺産である高津尾堰に関わっています。研究成果の講演活動を通じて地域住民に共有され、郷土史への理解を深めることに貢献しています。また、高津尾堰にまつわる感動的な物語『高台に水を引いた男』の制作にも携わり、その歴史的価値と地域への思いを後世に伝える活動にも尽力し地域の歴史を未来へと繋ぐ貴重な架け橋となっています。